

## 第3回「JATAの道」プロジェクト実施報告

## 1. 実施概要

- (1) 実施日： 平成28年10月28日(金)・29日(土) <1泊2日>  
 (2) 実施場所： 岩手県・みちのく潮風トレイル大船渡市区間、釜石市区間  
 (3) 活動内容： 環境省「グリーン復興プロジェクト」と連携した活動  
 (4) 団長： JATA 副会長・国内旅行推進委員長 戸川和良氏  
 (KNT-CT ホールディングス株式会社 代表取締役社長)  
 (5) 参加者： JATA 役員、会員会社、東北支部、プレス等

## 2. 参加者および関係者

来賓(敬称略、順不同)：戸田公明大船渡市長、野田 武則釜石市長、環境省 岡本光之国立公園課長、環境省 東北地方環境事務所 坂川勉所長、大船渡市観光物産協会 熊谷立志副会長、釜石観光物産協会 澤田政男会長

参加者		参加人数
JATA	本部役員・会員会社・事務局	41
	支部役員・東北管内会員会社	14
関係団体		4
プレス・メディア	東京より参加	3
	東北地域	3
	(小計)	(65)
地元観光関係者	釜石市	5
	大船渡市	29
	沿岸広域振興局	5
環境省関係者		5
	(小計)	(45)
	合計	110

## 3. スケジュール

月日	行程
10/28 (金)	東京～仙台～一ノ関 13:00 旧タビック 45 (陸前高田) 14:15 米崎 (リンゴ園) 及び水産加工会社見学 14:45 出発式 碁石海岸インフォメーションセンター <みちのく潮風トレイル (中南部ルート) 区間を歩く> 17:00 大船渡の新しい街づくり計画プレゼンテーション 18:30 地元観光関係者と JATA 参加者との交流会 (110名参加) 参加者：大船渡市市長 戸田公明氏
10/29 (土)	07:30 ホテル発 08:00 三陸鉄道盛駅 三陸鉄道・南リアス乗車 (震災学習列車体験) 09:00 唐丹 本郷<みちのく潮風トレイル (釜石ルート) 区間を歩く> 10:00 除幕式セレモニー 釜石鉄の歴史館 参加者：釜石市長 野田武則氏 12:40 鶉住居・根岸海岸 (宝来館)・ラグビーワールドカップ会場予定地視察 新花巻～仙台～東京

### 3年目の取り組み（岩手県大船渡市で、復興への決意新たに）

JATAは10月28日と29日の両日、東北復興支援事業として第3回「JATAの道」プロジェクトを、岩手県大船渡市・釜石市の両区間で実施しました。このプロジェクトは、2014年4月から震災発生10年後の2021年3月までの7年間にわたり、環境省が設定する東北地方太平洋沿岸地域のトレイルコース“みちのく潮風トレイル”全地区で、トレイル整備による復興支援活動を行うとともに、新しい東北観光の実現に向けて活動するものです。

#### 新しい東北観光の実現へ

3年目となる今回は岩手県大船渡市・釜石市区間において“みちのく潮風トレイル”の一部での散策と観光素材および東日本大震災からの復興状況の視察を行いました。国内旅行推進委員会の委員長も務める戸川和良JATA副会長を団長に、首都圏と東北地区のJATA会員旅行会社26社の役員・社員、関係団体、JATA事務局、プレス関係者など62人が参加したほか、環境省からも自然環境局国立公園課の岡本光之課長をはじめ東北地方環境事務所の職員ら5人が同行しました。大船渡市・釜石市・沿岸広域振興局や地元観光関係者を含めると過去最高の110名が参加し、このプロジェクトに対する高い期待がうかがえました。

#### ●視察レポート

##### 1. みちのく潮風トレイル”大船渡市中南部ルート（碓石海岸ウオーク）

県内一の規模を誇る大船渡港、奇岩や島・洞穴が続く荒々しい絶景を持つ碓石海岸と季節の草花など見所が続くルートの一部を散策しました。バリアフリー向けに道路を整備し、車いすの方にも楽しんで頂けるような工夫があり、また、地元の訛りを含んだ話し方で丁寧かつ楽しいボランティアガイドの案内は大きな観光資源の一つになると大変好評でした。



環境省 岡本 光之国立公園課長



椿の里 大船渡ガイドの会の案内による散策

##### 2. 米崎（リンゴ園）及び水産加工会社視察

被災地で企業成功モデルを目指しており、インバウンドの観点からも期待できる2つの事業を見学。

1) 岩手県内で最も古い歴史を持つ米崎町のりんご文化を次の世代に残すために自然の力を借りたエコなりんご栽培やぶどう畑で商品の開発販売に取り組んでいるスリーピークスワイナリーを見学。米崎町で三陸沿岸から世界に発信できるワインをつくる構想についてお話いただいた。



スリー・ピークス・ワイナリー及川氏

2) IT木工と製麺業を主にし、「復興」のシンボルでもある椿に想いを込め、2年間研究し完成した椿茶など地元産のものを取り入れながら多数の商品

開発に取り組んでいる(株)バンザイファクトリー。行政の支援を受けずに地元の人達を雇用

している工房としても紹介がありました。

参加者からは震災後に起業をしたプロセス、復興の話、食の話等、複数組み合わせられたこのプロジェクトは、とても興味深いとの感想が寄せられました。

3. 大船渡の新しい街づくり計画プレゼンテーション  
セミナー形式で、まちづくり会社(株)キャッセン大船渡の代表(ひじ)氏による講演をおこなった。大船渡市が津波災害から再生を目指し、これからの大船渡に希望を持てるプレゼンテーションで、「関与しやすい仕組みづくり」、「観光客にまた来てもらうための仕掛け」などの地元企業と自治体が一体となり、まちづくり会社を設立して復興に努めているレベルの高い講演となった。



キャッセン大船渡の代表(ひじ)氏

#### 4. 三陸鉄道（震災学習列車体験）

2012年6月から震災の被害や教訓を伝えるために走らせている「震災学習列車」（南リアス線盛（さかり）駅から唐丹（とうに）駅まで）に乗車。同社の熊谷松一氏がガイド役を務め、一時停止したり徐行運転したりしながら、当時の状況や復興状況を説明した。震災を忘れさせない取り組みとして、修学旅行や一般団体でも貸切運行を取り入れてみたい、素晴らしい観光素材だ、との声が多かった。



三陸鉄道（震災学習列車）

#### 5. 鶴住居・根浜海岸・ラグビーワールドカップ会場予定地視察

視察の後、宝来館にて釜石市の菊池部長より鶴住居地区の復興計画、ラグビーワールドカップの会場作りや、実際の運営、またその後のスタジアムの活用について説明があった。また、被災した宝来館の岩崎女将より、震災体験講話があり、未来に向けた復興にかける前向きな取り組みを聞くことができた。特に旅館裏手の避難経路をラグビーワールドカップ会場予定地まで繋ぐという計画はぜひ実現してほしいとの思いは、参加者の共通の意見でした。



根浜海岸 宝来館前にて



宝来館岩崎女将



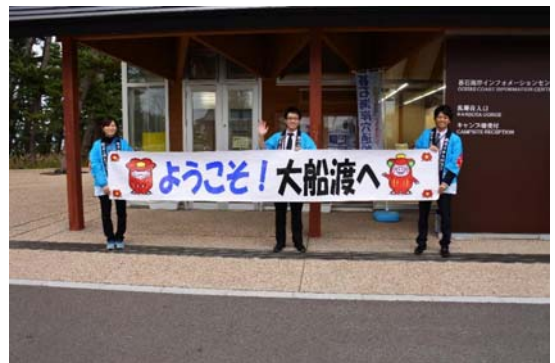
大船渡市長より感謝状の授与



釜石市案内板除幕式



旧タピック45にて献花



大船渡市職員のみなさん

以上